

高温に負けない稲づくり

適期収穫と斑点米カメムシ対策で、収量・品質向上に努めましょう

《はじめに》

今年は幼穂形成期頃からの高温により、出穂期が平年より4日程度早くなっています。出穂期以降の登熟期間も高温条件で推移すると登熟が早く進み、刈り遅れると玄米の品質が低下します。

また、「令和7年度 病害虫発生予報 第4号(7月16日付)」では、斑点米カメムシの発生予想量が「多」と発表されました。今後、遅植えのほ場の出穂期に飛来する斑点米カメムシにも注意し、適期に防除しましょう。

高温時は刈り遅れによる品質低下に特に注意！

- 高温条件では登熟が早く進むため、こまめにほ場を確認し、適期収穫に努めましょう。
- 刈り遅れると茶米や胴割れ粒が発生し、品質低下につながります。

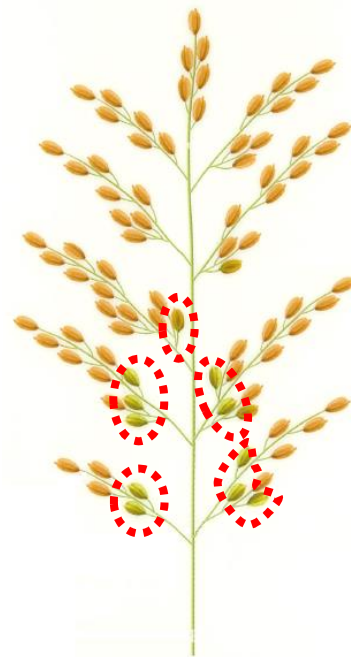


茶米(被害粒) 胴割粒(被害粒)

(農林水産省ホームページから)

- 落水は収穫の一週間前とし、収穫直前まで稲体に水分を供給して粳の充実を促します。

- 穂全体の籾が全て黄化した完熟籾になると刈り遅れです。出穂期から刈取りまでの標準的な日数(表1)を目安とし、ほ場で収穫適期を確認しましょう。なお、収穫適期は「帯緑色籾歩合15%」と目安とします。



内が帯緑色粃

(平均的な株の長い穂を見る。
穂の下部の枝梗に帯緑色粉が
残っている状態が収穫適期。)

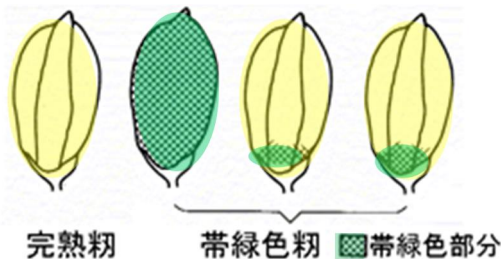


図1 帯緑色粒の見分け方

表1 出穂期から刈取りまでの標準的な日数

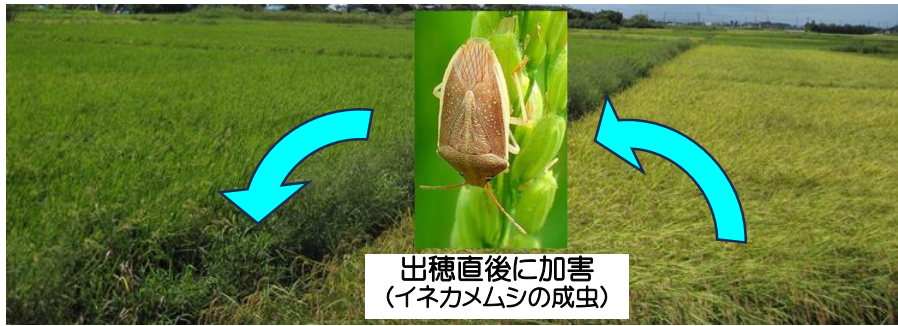
品種	出穂後日数
ふさおとめ	33日
ふさこがね	37日
コシヒカリ	38日
粒すけ	38日

注) 出穂期後が高温だと上記日数より3～5日程度早まります。

- 水稻生育予測システム「でるた」は、出穂期を予測し、出穂期から収穫まで品種ごとの標準的な日数(表1)を加算するため、登熟期間の気温は加味していません。出穂期後に高温で推移した場合、実際の収穫適期は予測値より3~5日程度は早まるため、注意して下さい。

[illegible]

遅植えのほ場や飼料用イネ作付ほ場における斑点米カメムシ防除 －出穂期が遅いほ場への斑点米カメムシの集中に特に注意！－



■今年は、イネカメムシ、大型斑点米カメムシ類、カスミカメムシ類の発生予想量が「多」となっているので注意が必要です。

■今後、出穂期を迎える遅植えのほ場や、飼料用イネ（飼料用米、WCS用イネ）作付ほ場に集中することが懸念されます。

遅植えほ場の出穂期（表2）を目安に、斑点米カメムシを防除し品質向上に努めましょう。

■近年、発生が多いイネカメムシは出穂直後の稲に飛来し、加害・産卵し、ふ化した幼虫も加害するため、出穂期前の粒剤散布又は出穂期のフロアブル剤散布が効果的です。

さらに、他の斑点米カメムシ対策としては、穂揃期から乳熟期の追加防除も必要です。

■遅植えのほ場で斑点米カメムシを防除する際は、4月植えのほ場の収穫時期と重なる可能性があるため、隣接ほ場への飛散に注意して薬剤散布しましょう。

飼料用イネ（飼料用米、WCS用イネ）は、使用可能な薬剤を確認して防除しましょう。

表2 遅植えほ場の出穂期の目安（県中央部の場合）

品種/移植日	5月10日植	5月20日植	5月31日植
ふさこがね	7月17日	7月24日	7月30日
コシヒカリ	7月25日	8月 1日	8月 7日
粒 す け	7月25日	8月 1日	8月 7日
（飼）アキヒカリ	7月15日	7月22日	7月28日
（飼）夢あおば	7月23日	7月30日	8月 6日
（W）たちあやか	8月15～25日頃		
（W）リーフスター	8月21～31日頃		

注1) 水稻生育予測システム「でるた」による7月23日現在の予測値。

注2) WCS用イネ品種「たちあやか」、「リーフスター」は飼料用イネの栽培技術（改訂版、平成30年3月）を基に推定。



「令和7年度 病害虫発生予報 第4号（7月16日付）」は、こちらからご覧下さい。



イネカメムシに対する対策は、農林総合研究センターの第62回試験成果発表【作物部門】のYouTubeをご覧ください。（発表は、24分06秒から始まります）

早めの秋耕で稲わらのすき込みを

台風の大雨による稲わらの吹き寄せや、来年の移植後のガスわき（還元障害）を防ぐために、早めに秋耕を行い、稲わらをすき込みましょう。なお、ガスわき防止のために耕うんは深すぎず、15cm程度とします。

